

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202230		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	岡山県倉敷市茶屋街1245-3		
自己評価作成日	平成22年2月18日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが安心し、くつろぐ事のできる場所がある。 ご家族・友人に気軽に訪問して頂ける、明るく活気あるホーム。 入居者と職員が、一緒に食事準備・畑仕事等共同作業をする事で信頼関係を築いている。 町内のお祭り・清掃参加・子供会廃品回収等に協力する事で地域交流をしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370202230&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成22年3月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所から8年が経過している。年数が経つにつれ入居者の要介護度も上がりつつあるが、みんなまで協力合せてペーパークラフトの大作を仕上げたり、ぬり絵やちぎり絵をしたりと日々の生活を謳歌している。玄関の横には可愛い菜園もあり、植えられている季節の野菜に早春の陽光が当たっている。広々としたリビングは採光もよく一角にあるキッチンでは担当の職員が入居者の希望に沿った食事を作る為に常にかいがいしく働いている。自宅での暮らしと何ら変わる事のない穏やかな時間を入居者と職員が共有することで、そこから連帯にも似た不思議な友情が芽生えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員個々に理念を挙げて当施設に該当するものを職員全員で理解し、共有し、日々の業務の中で確認する。	法人としての理念はあるが、うらら独自の理念を管理者と職員が全員で作って廊下に掲示している。みんなで考えて作った理念だからより身近に感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・きちんと挨拶をする ・町内溝掃除 ・子供会廃品回収 ・町内のお祭り参加	散歩の時にご近所の方々に挨拶をしたり、お年寄りのかたが立ち寄りされたりしてお付き合いはあるが、今年はインフルエンザの関係で例年よりは少なかった。外出は本格的な春がきてからになると思う。	施設が今まで実践してきた専門性を活かして、地域との密接な繋がりの中で、住民の相談に乗ったりしながら地域における認知症ケアの拠点として活動されるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地元中学生のボランティア・職場体験の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・町内及び学校行事への参加	町内会長、民生委員、地域包括の担当者が参加してくれている。最近、町内会長が代わったので次回は新しい町内会長の紹介を兼ねて4月か5月の開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市・県による研修会等の参加により得た情報を職員に伝達し、介護業務及び知識向上に取り組んでいる。	市町村の担当者とは、文書を送ってこられたものに対して、こちらから返事を送ったときに疑問があれば連絡をいただいている。	実践現場と行政の施策との整合性を図る為にも市町村の担当者には積極的に連絡を取り、様々な機会を通じて協働関係を構築することができるよう期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中ホーム内施錠はしていません。 ・入居者が自由に移動できる様見守っている。	徘徊や帰宅願望の人もいるが、外の空気を吸えば気持ちが落ちつくため、今のところは声かけ見守りで収まっている。職員が気がつかないうちに勝手に外出する人に対しては、地域の人にお願いをしながら気をつけている。	一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく見守ることが、鍵を掛けない暮らしに繋がっています。安全面に配慮して、自由な暮らしがこのまま続いていくことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	・入浴時の身体チェックによる異常発見と原因究明の話し合いを行う。 ・入居者に対する介助・声かけは職員間で報告し合い、防止・改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については該当者がいないが、回覧にて伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・法人担当・管理者が重要事項説明書に基づき説明を行う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族面会時等、個々に要望・相談を伺う様努めている。	週二回位はご家族が面会に来ている。家族会の予定はまだないが、もしできれば二軒ほどは参加可能なご家族がいる。	入居者ご本人の思いや意見を聴くことができるような雰囲気作りや具体的な取り組みの機会を作って、さらにサービスの質の向上につなげていかれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の事業所の全体ミーティング ・毎日の申し送り時に聞く。	細かい事は職員間で話し合っ解決している。日常のことで必要と認めたときには直接法人の統括責任者に報告するようにしている。管理者が職員一人ひとりと面談して意見や提案などを聞く機会を設けている。	管理者は職員の気持ちを忖度し、反映させることで職員同士がお互いにコミュニケーションを図り、さらにより良い支援ができることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者と直接職場環境・条件について話し合う機会はありません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・各研修の機会があれば、勤務の都合により参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他の事業所・同業者との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人と直接面接し、現状を把握しつつ、要望や今後どのような状況で生活したいかを聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人と家族の困っている事・要望・不安に思っている事を聞き、状況を把握する。 ・各職員が家族の訴えを聞いた時は早急に的確な返答ができる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人・家族の必要としている支援、職員からの意見を交えた上での話し合いにより、本人にとってよりよいサービス提供ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・掃除、洗濯干し、洗濯たたみ ・調理下準備(野菜刻み・ごますり等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎月のたよりを送付することにより、ホームでの行事・生活の様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人・親戚が面会に来やすい様、雰囲気作りに努めている。 ・声かけにて、買物希望者に同行している。	お花見には入居者の友人も一緒に誘って人間関係や地域の人との関わりが希薄にならないように配慮している。お墓参りにはご家族と一緒にいたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ホール内にてソファを置き、TVを観たり、談話・レクリエーションできる様にしている。 ・利用者同士の関わりを考慮し、テーブル席の配置をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院された時には面会に行ったり、家族と連絡を取り合っている。 ・他施設に移られた場合は再々面会に行き、本人の様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個々の話を聞く事により、意向を把握している。 ・本人が外出したい時は、職員付き添い又は家族協力をお願いしている。	一人ひとりの入居者に対して好きな食品や食べたいものを聞きながら、それを食事作りに反映させている。移動販売のパン屋さんが来た時などは入居者に声をかけ、好きなものがあれば購入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人・家族と会話する事により生活歴・生活環境を把握し、今迄とこれから必要とするサービス・支援を考慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・バイタルチェックによる体調管理 ・食事量・排泄チェック ・精神的状態・歩行状態等様子観察をしている。 ・往診・受診への対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・課題・問題が発生した場合、家族・ケアマネ・職員が随時意見交換・話し合いをしている。	問題が発生したり、様子が変わったりした時にはケアプランを見直している。基本的には半年毎に見直している。入居者の心の葛藤に目を向けて状況の変化にはすぐに対応するようにしている。	入居者がより良く暮らす為の課題やケアのあり方についてアセスメントとモニタリングを繰り返しながら常に模索し入居者ご本人やご家族の要望を加味しながら臨機応変に介護計画を作成されるよう期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録・業務日報記入や申し送りにより職員間で情報共有し、見直し、向上する様取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、色々な場合を職員間で話し合い、その場に沿った対応を臨機応変にする様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域民生委員・包括等と2カ月に1回程度集会の場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・異常・急変があった場合、往診体制が常にとれている。	心療内科と内科がかかりつけ医になっている。二週間に一回の往診があり、かかりつけ医とは常に連絡がとれる体制になっている。かかりつけ医以外の受診には基本的にはご家族が同行しているが、出来ないときは職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員は個々の日常生活・身体の状態を把握していて、小さな事でも見落す事のない様チェックし、随時看護職員に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・利用者の入院・退院時、状態・必要とする治療等、常に情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・当ホームは、現状ではターミナルケアを行っていない事を家族に伝えている。 ・今後の本人の、考えられる様々な状態の変化等を家族と話し合っている。	ターミナルケアに関しては現在検討中である。看取りの経験はまだ無い。異常があれば病院へということは入居時に説明させていただいている。現状では終末期になれば医療面でのケアを必要としている入居者が多い。	重度化した場合の対応のあり方について、出来るだけ早い時期から話し合いの機会を作って、ご家族と職員が同じ視点で考えることが出来るように医療連携も視野に入れながら体制作りをしていただけるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・緊急対応マニュアルが職員の目に入る所にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に1～2回、職員・入居者参加にて避難訓練を実施している。 ・近所の方には、災害緊急時の避難協力をお願いしている。	夜間の災害ときには職員が一人だけで対応するのは難しいので日頃から地域の方々の話し合いを持つようにし、昼夜かわらざる有りの際の協力を運営推進会議を通じてお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・トイレの声かけは、一人一人必要な時に、プライドを傷つけない様に行っている。 ・入浴時一対一で行い、必要とされる介助をしている。	入居者ご本人の生活暦を見ながら言葉掛けや表現方法に気をつけている。得意なことがホームでの生活の中で活かされるように考えながら接している。	普段何気なく喋っている言葉が知らない間に入居者の誇りを傷つけたりプライバシーを侵害したりしていないか、職員同士で常に確認し合う習慣を持つようには試みてはいかがでしょうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・今何がしたいか希望を聞く事により(作業・レクリエーション・散歩等)、その日の状況に応じてできる事を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員の業務上基本的な事はあるが、利用者の意見・希望を取り入れて過ごす様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・2か月に1度の、ボランティアによる散髪 ・本人の着たい衣服の購入(職員・家族による)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立作成時、食べたい物を聞き取り、栄養バランス・食材の偏り・旬の食べ物等考慮している。 ・準備・片付けを、声かけして一緒に行う。	一人ひとりから希望を聴きながら、栄養面にも配慮して好きな料理を作っている。器、盛り付け、色などビジュアル面にも気配りを忘れず、料理は目で食べるの言葉通り、食指が動くような献立作りを心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事(3食)は全て職員の手作りで、献立作り・買物・調理迄行っているので、十分な栄養・水分量を摂取できる様工夫している(必要な人にはトロミ使用・粥・刻み食・ミキサー食で対応している)。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時・毎食後、個々に応じた声かけ・見守り・介助により口腔ケアを行っている。 ・週1回、入歯を洗浄+消毒液につける。 ・希望者には歯科往診		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・早めの声掛けにてパッド内の失敗を減らす。 ・トイレでの排泄を意識・習慣付ける為、おやつ・食事・何らかの行動前には時間をみて必ずトイレへ行くよう声掛けする。	排泄のパターンに沿って声かけをしている入居者は一名だけで、食事の前後やおやつ前後に誘導することで排泄に対する意識づけは定着している。夜間のおしめの使用者はあまりいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・午前中フロアでの全身体操を行っている(無理のない程度で)。 野菜嫌いの方には細かくしたりミキサーにかけたりし食物繊維を摂取する。 ・ホール内歩行・ストレッチ・床拭き掃除等 ・ヤクルト注文(本人希望の場合)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・寝る前に入浴し布団に入るのがベストだが、職員の人数上、安全を考え日中に行っている。基本的に毎日入浴可能、本人の希望により入ってもらうが、日曜日は面会客多い為、休みとしている。	日曜日以外、毎日でも入浴できる準備は出来ているが、現在は毎日の入浴希望者はいない。現実にはお一人が週に2~3回の入浴が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・畳・ソファを設置しているので、各自落ち着く場所へ座っている。ウトウト居眠りが多いので、本格的に寝入った場合は居室の本人用の寝具で横になる様声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各自の薬報をファイリングし、すぐに確認できるようにしている。 ・個人の薬袋を作り、朝・昼・夕用に薬を整理する ・配薬と服薬確認は必ず職員が行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・裁縫・調理・畑仕事等、各自得意な事を活かして作業する。 ・折り紙作品で居室を飾る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・お盆・年末年始・法事・お墓参り等家族に協力をお願い、外出を楽しむ。 ・日中扉は開放し、自由に入出入り出来るようにしている。遠出の場合は職員が付き添っている。	買い物や散歩、ドライブなどで外出をしていたが、新型インフルエンザの影響やドクターストップがかかった人がいたため外出の頻度は減っている。	満足度調査をしたり、ご本人の希望を聴いたりしながら、個別に対応してあげることによって短時間だけでも戸外に出られる時間を作り、気分転換の為の外出の回数を増やして季節の移り変わりを五感で感じるような機会を持つようしてください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現金の本人所持・事業所管理はしていない。 ・買物等の支払いは立替し、請求書に含めて家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・友人・家族との手紙のやりとり・電話の使用は希望時にはできる様支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・我家としてくつろぐ事が出来る様、強い日差しを和らげるカーテンの使用・落ち着いた色の家具等工夫している。 ・一般家庭と同様の浴室・トイレ・台所になっている。	リビングの一角に台所があり、自宅にいるような気分で食事の出来上がるのを待つことができる。入院中の入居者のために鶴を折ったり、新聞を読んだりしながら、思い思いの時間を過ごしている。壁にはロールペーパーで作った様々なクラフト作品が飾られ、文化面の充実を物語っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・家具・テレビ・ソファを模様替えする事で利用者同士のトラブルを防ぎ、お互い良い関係で過ごす事が出来るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に家族に必要な物を伝え、できれば今迄使い慣れた物を持って来て頂ける様にしている。	リビングで作るだけではなく、部屋の中でも好きな時に好きなぬり絵をすることができるように居室の中に机と椅子が置いてある部屋もある。テレビ、筆筒など居室の中には入居者にとっての必要な品が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・建物内はバリアフリーであり、手摺りを装備し、安全に生活できる環境にしている。		